

[書評]

ジョナサン・チャタリス＝ブラック
『政治家とレトリック』

Jonathan Charteris-Black, *Politicians and Rhetoric, the Persuasive Power of Metaphor*, Palgrave Macmillan, 2nd edition, 2010.

村 井 洋

本書はイギリスの言語学者の手による政治的説得言語の研究である。20世紀のほぼ中頃から21世紀にいたるイギリス、アメリカ合衆国の政治家達がいかなるレトリックを用いて聴衆を説得し、支持を取り付けようとしたのかを、その演説におけるメタファー（metaphor 隠喩）の使用に焦点を当てて論じている。

古典古代ギリシアのポリスを「言葉と行為の空間」と性格付け、アメリカ独立革命を言葉による活動空間を創設した「始まり」として捉えたハンナ・アレントをまつまでもなく、政治が言葉の技であることは広く認められている。政治家の吐く言語は政治に関わろうとするアクターが効果を狙ってその彫琢に心を砕く対象であるし、選挙民たちはその言語によって自らの関心との距離を測ろうとする。従って、赤裸な利害状況が「言語の壁」を突き破る強度を持つことがしばしばあるにせよ、政治の思考と活動とが言葉の技巧と学的分析によって極められるべきだという意識は一定の合意事項とあってよいであろう。また、よく知られているように、古代シシリー島に始まったと伝えられるアートとしての弁論術とその学問的体系化はヨーロッパ人文主義の伝統の一つの幹を為している。

本書は十二章からなっているが、それはおよそ三つの部分に分けられると言ってよい。すなわち、第一章「説得、スピーチの形成、レトリック」第二章「政治的言説におけるメタファー」といった原理論ともいべき部分と、イギリスアメリカ両国の二十世紀後半以降の政治家のスピーチを具体的に分析した九つの章からなる部分、ならびに結論部である第十二章「神話、メタファー、リーダーシップ」である。本書で分析される演説は英語圏の政治家たちであり、W. チャーチル、E. パウエル、M. サッチャー、T. ブレア、M. キング、R. レーガン、B. クリントン、G. ブッシュ父子、B. オバマらである。

本書の著者がことさらメタファーに着目するのは、始めの二つの章で述べているように、メタファーの効果にあり、それは意識的なもの・合理的なものとは無意識的なもの・感情的なものを橋渡しする媒介的なはたらきに負う。後者の無意識的なものの典型としては神話（myth）があげられる。「神話」は社会的に沈殿した集合的先入観を指す場合もあるし（サッチャーが社会主義に対して「信頼できない人物」、「中古車」というメタファーによって批判したとき、その背後にはイギリス固有の「神話」があったと著者は指摘する）あるいはホメロスや旧訳聖書の物語のような文明の基底に据えられている集合表象を指す場合もある。こうしたメタファーの使用によって聴衆の精神は活性化され、話者（政治家）へ

の道徳的信頼感が高まると共に、提示されたディスコースの信憑性も受け入れられるに足るものとなるわけである。

結論部で著者は、コーパス（言語データベース）の総括的な分析を行っている。それは表1と表2に掲げてあるように、多くの政治家の演説に多用されているメタファーとしては「擬人化」および「旅」があるということである。この理由を著者はこう分析する。

擬人化は抽象的で分かりにくいイデオロギーに理解しやすい意味を付与する働きがある。たとえばチャーチルのように、戦争レトリックとして擬人化を多用したのは、敵対者への強い情念のなせるわざだと理由づけられる。

「旅」については、これも単に抽象的な目的の設定とそこに至る手段の提示という論理的表現よりも、非日常を提示することによって、従来の日常とは異なる経験を開示するという意味での場面転換があること、旅に付随した具体的なイメージ（道、乗り物、目的地）を動員できることでわかりやすさが生じることや、神話的想念（出エジプトやオデュッセイアのように英雄の力によって目的地への到達が可能になる）と重なり合うことによる効果が考えられるとしている。

そのほか、メタファーにはブレアやサッチャーのやや独善的な例に見られるように、自ら倫理的判定者の地位に立つことによって話者の道徳性を際立たせることが出来る。そして、チャーチルが行ったように単純化の手法を駆使して聴取者たちのパトスを高める効果を実現すること、フレッシュなメタファーを使用すれば新たな認識のパースペクティブをもたらす効果があることも語られるのである。

注目されるのは、演説言語の使用、特にメタファーの使用に関してイギリスとアメリカの政治家たちに国を越えた相互の「学びあい」があったことである。たとえばトニー・ブレアがクリントンのレトリックに学んだことや、ブッシュ（子）がチャーチルの戦時演説のメタファーを模倣したことなどである。このことは、メタファーの使用が思考法の採用でもあり得るということを考えるとき、深刻な事実の指摘であるといえよう。二次大戦と冷戦期を越えてなお、チャーチルの採用した思考法－「善なる我々」と「悪辣なる敵」という二分法－がアフガニスタン、イラク戦争に影響したといえるのである。

さて、本書は言語学者の手による言語学的手法を基礎にした業績である。コーパスを作成して行った方法の手堅さとその結論の妥当性は上記のようないくつかの興味深い指摘となって示されている。この業績の意義を認めたくえて、評者が身を置く政治学の視点から眺めると（評者自身の反省を専らにすべきという意味であるが）ある種の感慨が湧き起こるのを禁じ得ない。それは、今後の政治学者の手による政治学のレトリック分析の余地があるだろうかという問題である。

ロラン・バルトが『旧修辞学－便覧』の中で近代以降における学的体系あるいはアートとしてのレトリックの信用喪失（没落）が、明証性のテーゼによって引き起こされたことと指摘している件を想起しよう。その明証性とはデカルトにおける哲学的明証性、すなわち考えるコギト（我）を意識する際の明瞭性は技巧を越えて現れるという確信であり、プロテスタントによってもたらされた信仰の明証性（言うまでもなく救済の契機が各人の「信仰心」にのみ）に存するという教理）、科学的データ観察と論証への信頼と軌を一にする経験的明証性であるという主張である。これらの異なった領域から引き起こされた複合的な攻撃によってレトリックは、古代以来の人文主義的な信念もろとも破砕されたかのような感

がある（こうしたいきさつをヨーロッパ人文主義的理念の信用失墜についてもつ近代啓蒙主義の「責任」問題であるとしたのがH.G.ガダマーの『真理と方法』であった）。

ところが、本書によれば政治の「現場」ではレトリックが何らかの形で要求され、需要されているという事実が描写されていると言える。当然のことながら古代（伝統的）レトリックが存立していた政治社会と現代の政治社会はその質と規模、メディアを異にする。それに応じて、かつては哲学（の真理性要求）とのバランスの上に成立していた「旧修辞学」（レトリック）が、少なくともそのままの形では成立しなくなっているという事態である。本書において語られた「正しい政治的議論、正しく考えることthinkingを正しらしさsounding rightによる感情への訴えに統合する」課題（本書p27）を、専らそれぞれの政治家の言説の内の一貫性として実現される課題であると、言語学としての著者は考えたのであろう。それに対して「政治学の観点」というときは、各自の誠実性の問題を越えて「複数の政治アクターが織りなす政治状況の中で“正しい”とはどのようなことか、どのように語ることが正しいのか」を考えることである。すでに演技的行為と合意をめざす行為とを区別したハーバーマスの思考系列からは討議的デモクラシーが一定の回答の試みを行っている。一方ハーバーマスとはやや立場を異にして、政治をアートとして、「自由な」（ハーバーマスのような暴力からの自由という意味に加えて、自己の発意に基づき、複数の他者の不可予測性に賭けて行う）活動と捉えながら前の問いを検討することの意義が浮上してきたと言える。それは、「私たちは自分が真理であると思うことを語ろう。そして真理自体は神に委ねよう」というアレントが引用したレッシングの言葉を今どのように解釈し適用するのかという問題でもある。

キーワード：レトリック、メタファー

(MURAI Hiroshi)

表1

ソースドメイン	チャーチル	サッチャー	ブレア	パウエル	小計
旅	48	26	75	27	176
擬人化	144	15	31	48	238
創造			35	11	46
破壊			18	5	23
具体化			28	77	105
抗争		53	27	18	98
健康と病		24	10	21	55
動物	15	14	8	14	51
火	13			4	17
宗教／モラルティ	13	10	6	17	46
光と闇	33		5	7	45
自由と隷属	23		14		37
建設	12			6	18
生と死		14	15	2	31
植物		11		17	28
風景	5			13	18
罪と罰				6	6
財政			13	9	22
天候	5			5	10
水	9			32	41
スポーツとゲーム				6	6
色彩				5	5
睡眠				6	6
そのほか	53	21	10		84
合計	373	188	295	356	1212

本書314頁315頁の表に基いて作成

表2

ソースドメイン	キング	クリントン	レーガン	ブッシュ親子	オバマ	小計
旅	140	76	104	59	85	464
擬人化	18	9	30	110	39	206
創造		82	13	35	76	206
破壊		28	15	21	8	72
具体化	20	8	42	30	31	131
抗争	14	7	35		40	96
健康と病	20	6	24		11	61
動物			4	10	5	19
火		10	8		10	28
宗教／モラルティ		18	13		14	45
光と闇	23		20	23	12	78
アメリカンドリーム					36	36
自由と隷属	26		8			34
建設			20		18	38
生と死		76	4	9	3	92
植物			22		5	27
風景	26	7	4		6	43
ベル	23					23
罪と罰				24		24
財政			10	29	21	60
天候	18	6	11		3	38
水		5	13		7	25
物語				22		22
そのほか	26	21	79	82	17	225
合計	354	359	479	454	447	2093

本書314頁315頁の表に基き一部数字を修正して作成